

ジュリグワー岩

神谷 カマド (1902・M35) 字瀬名波 (01:44)

あぬ、私^{わつ}たーシマンかい、ジュリグワー岩^{しーあ}でいち在
しが、うぬジュリグワー岩^{しーあ}やカガンジ原^{ばるあ}んかい在る
ばー。

あんし、昔^{うんかし} えあぬーウグワンぬ後^{くし}んかい按司^{あじ}墓^あ
ぬ在しが、うぬ按司^{あじ}墓^あんかい按司^{あじ}ぬ隠^{かく}ていめーぬ頃^{くる}
やてーぎさるむのー。なー其^{うんま}処^{かく}んかい隠^{かく}とーんでいち
てい^{てい}ち^わ敵^あ え分^あかたぐと、なージュリ^やぬ家^あとーてい、「明日^あ
あ私^{わつ}たー其^{うんま}処^しんかいや、攻^いみてい行^いちゆんでー」でい
ぬ話^{はなし} いしえーぎさぬむのー。うぬジュリエ、なー
く^くま^{かた} 此^{はなし}処^ちぬ方^{うんま}んやてーるふーじ。

なー、あん^{はなし}い^ち話^ち や聞^{うんま}ちやぐと、すぐ馬^{うんま} がき
からかきてい、此^{くま}処^しんかい知^しらしが 来^{ちゆー} んでいしえー
ぎさん。来^{ちゆー} んでいさぐと、また其^{うんま}処^ああぬだー、
あぬ番^{ばん}手^{てい}ぬが立^たちよーたらー、追^いかきらつていが
来^{ちや}らー分^わからんしが、其^{うんま}処^{くる}つてい殺^{はなし}さつたんでいぬ
話^{はなし}。

あんし、殺^{くる}さつていさぐと、なーう^{うんま}んにーから
其^{しーちゆー}処^{ひる}あまた靈^{あつ}強^{あつ} はぬ、昼^{あつ}やていん歩^{あつ}からんあたい、
三^{せん}線^{せん}クワンないし。あぬ儀^{じーま}間^{わつ}ぬヨシよー、私^{わつ}たーウ
ジャサー、また蒲^{かまい}上^{ちぐわー}地^{はあ} 小^{みつ}ぬお婆^{ちやい}、あつたー三^{みつ}人^{ちやい}め
ーにん、十五^{じゆー}夜^{ぐやー}ぬ真^ま昼^{ひる}るやし、うすま^{うんかし}さクワン
ない、クワンない、なーう^{うんかし}りすたんでい。昔^{うんかし} んでーや
れー、またむる歩^{あつ}からんたんでいよー、其^{うんま}処^いから。

あんしすたんでいしが、また其^{うんま}処^{やくしよ}あ、役^い所^いから、上^い
からんめんしえーがすたら一分^わからんしが、役^{やく}所^{しよ}し
んかぬ、サクドウ馬^{うんま} でいち、馬^{うんま} 乗^{うんま}ていよー、多^{うぼー}
ぬ人^{しんか}達^{うんま}ぬ其^{うんま}処^{うが}んかい拜^{うが}みがめーたんでい。

あんし、また其^{うんま}処^な拜^なりから宮^な城^なよ、私^{わつ}たーシマぬ
宮^な城^なんじまたしちふあー、茶^{ちや}水^みみそーち行^はんしえ
ーたんでいしが。うぬジュリエなー何^ぬんでいぬジュリ
がやたらー、うれーなーむる分^わからん。あんしがなー、
しー靈^しやうすまさうりやたんでいぬ話^{はなし} やるばーて。

【共通語訳】

私たちの字、瀬名波にジュリグワー岩というのがあ
るけど、それは鏡^{かがんじ}地^じ原^{ぼる}にあるよ。

ウガンの後方に按司墓があつて、昔、そこに按司が
隠れていたらしいんだ。けれども、敵は按司がそこに
隠れていることを知り、ジュリの家で、「明日、私たち
は按司墓を攻めに行く」と話していたそう。それを
聞いたジュリは隠れている按司の味方であったよう
だね。

もう、その話を聞いたジュリは、すぐ馬に乗って、
按司に知らせに行こうとしたようだ。だが、そこには
門番が立っていたのか、後追いされたのか分からない
が、岩近くで殺されたという話。その岩がジュリグワ
ー岩と呼ばれているんだよ。

そんなことがあつて、それからその辺りは怨念がこ
もり、人影もないのに三線が鳴り響き、昼でも歩けな
いほど怖い所だった。儀間のヨシと私の伯父さん、蒲
上地小のお婆さんの三人がそこを通った時も、八月十
五日の真昼にもかかわらず、ものすごく三線が鳴り響
いていたそう。昔は、そこから通れないほど怖い所
だったというわけさ。

そんなことがあつたというが、そこには役所(王府)
から遣われた人が、サクドウ馬という白馬に乗って来
て、役人など大勢の人を拜みにいらっしやつたんだっ
て。

そうして、そこを拜んだ後は瀬名波の宮城で、拜み
を済ませたとの報告をし、お茶を召し上がってから帰
って行かれたそう。殺されたジュリが何という名前
であったのか、それはもう全く分からないが、たいそ
う霊力が高かったという話なんだよ。